

—小平のまちづくりについてみんなで考えましょう— まちづくりカフェ・ニュース Vol.1

平成 27 年 2 月



小平のまちづくりについて考える まちづくりカフェ第1回を開催しました！



現在、小平市で検討をはじめている「小平市都市計画マスタープラン」の見直し作業に関連して、市民の方々の思いや考えをお聞きする場として「まちづくりカフェ」を開催しました。

当日は、25名の市民の方にご参加いただき、BGMが流れる気軽な雰囲気の中で、コーヒーやお茶を飲みながら話し合いを行いました。その様子について、ご報告いたします。

【開催概要】

- ◆日 時：平成 27 年 1 月 25 日（日）9 時半～12 時
- ◆場 所：小平市中央公民館 2 階 学習室 4



第 1 回の内容

- 1 開会
- 2 ミニ講演会
「市民が主役のまちづくり」
野口和雄氏（まちづくりプランナー）
- 3 市民アンケート調査結果
- 4 グループ分け
- 5 市民アンケート調査結果を踏まえての意見交換
- 6 次回以降に議論するテーマの確認
- 7 本日のまとめ
- 8 閉会

ミニ講演会「市民が主役のまちづくり」

はじめに、まちづくりプランナー・野口和雄氏（(株)地域計画建築研究所）より、「市民が主役のまちづくり」と題してお話がありました。

〈ミニ講演会要旨〉

●都市計画マスタープランはまちづくりの羅針盤

都市計画マスタープランとはなんだと思いますか。一言で言うとまちづくりの方向性を示すものであり、言い方を変えれば「羅針盤」のようなものなのです。ただ実際には、まちづくりは福祉や教育など多岐にわたり、都市計画に限ったものではないので、分野を超えて連携する必要があります。

また、何よりまちのことを一番御存知なのは、ここにいる市民のみなさんです。そこで、みなさんが日頃、思っている事、考えている事を伺う場を設けることになりました。



●まちづくりの主役は市民のみなさんです。

まちづくりの究極の目標は、みんなが幸せになることだと思っています。その実現に向けて、行政が旗振り役を担うことも必要ですが、行政が押し付けるだけでは良いまちにはなりません。やはり、あくまでまちづくりの主役は市民のみなさんなのです。

●地域が支え合うまちづくりを！

小平市の人口推計予測をみると、全国と同様にそろそろ人口減少が始まります。少子高齢化が進むと様々な問題が発生します。例えば、空き家の増加は既に至るところで発生しており、治安の悪化にもつながる可能性があります。

こういった様々な問題を解決するためには「地域コミュニティ（地域のつながり）」が重要となります。地域コミュニティをしっかりとしたものにするには、地域の人たちが互いにコミュニケーションをとり、支えあう社会を実現させることが大切です。

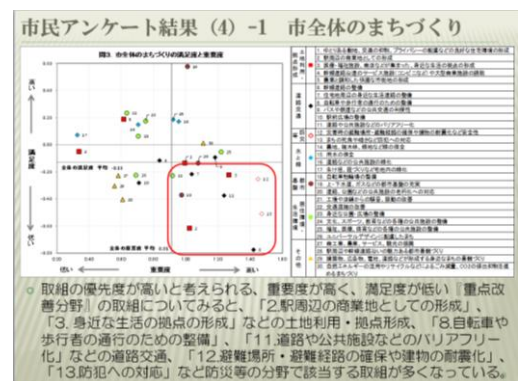
これから「まちづくりカフェ」で、小平のまちづくりについて意見交換をしていただきますが、今お話ししたような内容も頭の片隅においていただき、有意義な時間を過ごして貰えればと思います。

市民アンケート調査結果の概要報告

コンサルタントより、昨年の10月～12月に実施した市民アンケート調査の結果の概要について報告がありました。

市民の意見としては、比較的、定住意向が高いことや、望ましいまちの姿として「安全・安心なまち」「コンパクトなまち」「移動しやすいまち」等が求められていること等が分かりました。

また、市の施策の取組に対する「重要度」や「満足度」に対する意見についても報告があり、それをベースに後半のグループワークを行いました。



※現在、アンケート結果の詳細を整理中です。整理が出来次第、公表を予定しています。

グループワークの概要

グループは参加者のみなさんに誕生日月で並んでもらい4つに分かれました。そして、グループメンバーの共通点等を話し合いグループの名前を決めてもらいました。

【決まったグループ名】	早春グループ	／	さくらグループ
	ひまわりグループ	／	どん栗グループ

グループワークでは、「アンケートの問3の結果を見ての意見交換（市民全体と自分の意見のギャップなど）」「次回以降に深めて議論したいテーマ」の2つについて話し合いをしました。

■早春グループ

◎重要と考える項目

- ・重要項目のうち、満足度が低く、今後対応が必要なものについて出しました。最も多かったのは「医療施設、福祉施設、商店などが集まった、身近な生活拠点の形成」で、その他には「自転車や歩行者の通行のための整備」や「生け垣、庭づくりなどの宅地内の緑化」、「駅周辺や幹線道路沿いの魅

力ある都市景観づくり」、「建築物、広告物、電柱、道路などが形成する身近なまちなみの景観づくり」といった景観に関わる項目なども出ました。

- ・また、地図を見ながら道路が狭い場所、公共施設へのアクセスが悪い場所、広告が美観を損ねている場所などを確認しあいました。
- ・公共交通について、「高齢者は民間のバスなら運賃が無料になる方もいるが、コミュニティタクシーは有料であるため、せっかくみんなでルートを考えてコミュニティタクシーがあまり利用されていない」という意見が出ました。※東京都シルバーバスは、取得の際に発行手続きの費用が有料となっております。
- ・こうした状況に対して、「敷地の緑化を進める」、「空き家の固定資産税を上げればいい」、「空き家の解体への補助金を出せばいい」、「タクシー券を配る」等のアイデアも出されました。



◎次回以降に深めたいテーマ

①生活拠点のあり方

⇒買い物、医療、福祉、公共施設などが整った景観的にも魅力のある生活拠点のあり方や、バスなどの公共交通や道路などの生活拠点へのアクセスのあり方など

■さくらグループ

◎重要と考える項目

- ・重要項目は、「交通混雑の改善」、「道路や公共施設のバリアフリー化」、「自転車や歩行者の通行のための整備」などを挙げる人が多く、これらに対する改善の必要性が高いという意見が多く出ました。
- ・それらから派生して、「車社会のライフスタイルが基本であるので、駐車場のない駅前商店街は利用しない」、「大規模商業施設が問題という意見もあるが、あらゆる世代のニーズに応じた商品が揃っているし、バリアフリー対策も充実している」といった意見も出ました。
- ・一方、「小平市は玉川上水や緑道などの整備が充実しているのに、市全体でみると歩行者が散策できるようなネットワークづくりが不十分ではないか」といった意見も出ました。

◎次回以降に深めたいテーマ

①歩きたくなるまち・自転車で回れるまち

⇒道路や歩行者のネットワークを意識しながら、“歩きたくなる”・“自転車で回りたくなる”まちのあり方

②駅前の商店街などを活かしたまちづくり

⇒既に集積している駅前の商店街を元気にするにはどうするか、まちの賑わいづくりをどうするかなど

③交通環境を考える

⇒交通渋滞の改善や交通バリアフリーの問題など、広く交通環境を良くするためにはどうしたら良いかについて



■ひまわりグループ

◎重要と考える項目

- ・重要項目は、「文化、スポーツ、教育などの各種の公共施設の整備」、「農地、雑木林、緑地などの緑の保全」、「医療施設、福祉施設、商店などが集まった、身近な生活拠点の形成」という意見が多く出ました。
- ・緑の保全に関連する「用水の保全」や生活拠点に関連する「駅周辺の商業地としての形成」、「駅周辺の幹線道路沿いの魅力ある都市景観づくり」などをあげる人もおり、皆さんの問題意識は概ねこの3つに共通するところが多いようです。

- ・このほかには、「夜間の住宅地が暗く安全性に不安がある」との声なども聞かれました。

◎次回以降に深めたいテーマ

①市民ニーズに対応した公共施設のあり方

⇒学校教育施設やスポーツ施設、民間も含めた文化施設などの公共施設のあり方

②小平市を特徴づける緑のあり方

⇒小平市を特徴づける重要な要素である玉川上水や屋敷林、点在する農地などの緑のあり方

③拠点におけるまちづくりのあり方

⇒様々な都市機能が集積する駅周辺などの生活拠点のまちづくりについて(にぎわい形成や利便性の向上、景観形成などの観点から)



■どん栗グループ

◎重要と考える項目

- ・重要項目としては、「福祉、医療、保育などの各種の公共施設の整備」、「バスや鉄道などの公共交通の利便性」といった意見が多く見られました。
- ・保育所などの子育て施設や高齢者福祉施設については、「せっかく良い施設があるのに周知が足りないのではないか」といった意見も出ました。また、「空き家・空き店舗を活用して福祉施設等が作れないか」といった意見もありました。
- ・公共交通については、「市南東部や北西部でバス網が足りない」との意見があり、「地域により利便性に差がある」との課題意識が共有されました。これに対し、「カーシェアリングなどを活用しながら不便性を解消していったらどうか」といった意見も出ました。
- ・他に、「まちづくりに関して市民自らが積極的に取り組み、その声を行政に届けることが大切」との意見も出ました。



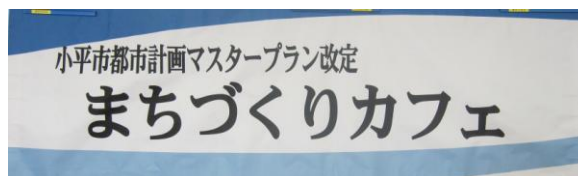
◎次回以降に深めたいテーマ

①子育て、医療、福祉の充実したまちづくり

⇒子育てや医療、高齢者福祉といった分野ごとの公共施設のあり方

②交通利便性の高いまちづくり

⇒鉄道駅やバス路線から離れた地域の交通不便性を解消するために何が必要か、行政、民間それぞれができることについて



次回も、「まちづくりカフェ」の様子をお知らせします♪



《問合せ先》

小平市 都市開発部 まちづくり課 計画担当 電話 042-346-9554(直通) / FAX 042-346-9513(代表)

※グループワークでの話し合いによるご意見は、参加者の思いやお考えとして、そのまま掲載しております。